

市民講演会「がんの最先端放射線治療とそれを支える医学物理士」

がんは日本人の死因第1位の疾患です。その治療法には手術や化学療法とともに放射線による治療が大きな役割を果たしています。がん治療に利用される放射線の種類には、X線、電子線、陽子線、炭素線や中性子線などがあります。また、近年の様々な技術の発展に伴い、放射線治療装置や照射手法が急速に進歩し、最先端技術を用いた放射線治療が実現可能となってきています。そして、その最先端放射線治療を縁の下から支える放射線治療物理のエキスパートが医学物理士なのです。

本市民講演会では、がんの最先端放射線治療はどういったものか、それを支える医学物理士の必要性を伝えられればと思っております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。(入場無料、定員 200 名)

日時：2010年9月23日(祝日) 14:30~16:30

場所：学術総合センター2F 中会議室

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 (Tel: 03-4242-6000)

アクセスマップ <http://www.zam.go.jp/i00/i0000000.htm>

プログラム：

- 14:30~14:40 開催挨拶
国立がん研究センター中央病院 放射線治療科 科長 伊丹 純
- 14:40~15:10 医学物理士とは
九州国際重粒子がん治療センター 技術統括監
日本医学物理学会 会長 遠藤真広
- 15:10~15:40 放射線治療と医学物理士
順天堂大学大学院医学研究科
放射線医学講座 先端放射線治療・医学物理学講座 准教授 唐澤久美子
- 15:40~16:10 医学物理士の貢献
国立がん研究センター東病院臨床開発センター
粒子線医学開発部粒子線生物学室 室長 西尾禎治
- 16:10~16:30 総合討論
- 16:30 閉会挨拶 伊丹 純

主催：独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費

21分指-8-⑧「安全で高精度な放射線治療を実現する放射線治療体制に関する研究」

(代表者 伊丹 純)

共催：日本医学物理学会、日本医学物理士会

直接、会場にお越しください。事前の申し込みは不要です。なお、当日は日本医学物理学会第100学術大会が開催されております。

問い合わせ先：電子メールでお問い合わせください。

国立がん研究センター中央病院放射線治療科長室 大越元子 (mogoshi@ncc.go.jp)